

課題研究論文

生涯スポーツを通じた地域貢献

特集にあたって

「生涯スポーツを通じた地域貢献」という課題を設定し、大学の社会的役割として、地域にどのように貢献したか、実践を通じた研究報告を特集した。なお、今回の課題研究の原稿は、編集者からの依頼のみでなく一般応募からも採用させていただき、テーマ以上には内容を限定せず、執筆者がテーマに沿って独自に内容を構成していただいた。地域貢献の「地域」は、単に本学が立地する滋賀県大津市及び湖西地区と限定しないで、英語のLocal Communityでの活動という意味で、住民や企業体と共に、その公共の便益に貢献しようとする社会的活動を課題対象とした。今回の課題研究では、大学の地域貢献の成果をまとめるというより、大学創立8年が経過した現段階での地域貢献の各実践例のプロセスを紹介することが重要と考えたからである。

第1題は、新宅幸憲「スポーツをとおした地域貢献」である。ここでは、地域の研究事例として、高齢者での介護予防教室での立位姿勢と重心動揺の変化と5歳児の調査での平衡機能と運動能力との関連を追求した。

第2題は、金田安正「障害者フライングディスク競技の普及について—特に富山県の普及について—」である。ここでは、障害者フライングディスクの活動を報告する。

第3題は、若吉浩二、中岡慎吾「地域資源を活用したヘルスツーリズムにおける運動プログラムの開発に関する研究—ノルディックウォークに着目して—」である。ここでは、ノルディックウォークに着目し、具体的に運動量を計測し、そのヘルスインプクトを考察したものである。

以上の3題を通じて、スポーツを通じて地域貢献のプロセスを読みとっていただければ幸いである。

金森 雅夫 林 綾子